

第 1 問

解答

問 1	<input type="text" value="1"/>	③
問 2	<input type="text" value="2"/>	④
問 3	<input type="text" value="3"/>	①
問 4	<input type="text" value="4"/>	④

解説

問1

正解は③。

アは正文。プラトンの哲学はプロティノスなどの新プラトン主義の思想家に継承されて神秘主義と結びつき、後に他のギリシア哲学とともにアウグスティヌスなどの教父哲学に影響を与えた。

イは誤文。シーア派とスンナ派の論争は正統カリフ以後のカリフをムハンマドの正統な後継者と認めるか（スンナ派）否か（シーア派）に関わるものであり、ギリシア哲学の受容は関係ない。

ウは正文。トマス＝アキナスはアリストテレスの経験主義的な哲学に基づきながら「哲学の真理」（理性に基づく真理）と「信仰の真理」を区別しつつ両者の調和を図り、カトリック神学の体系を確立した。

以上よりアは正文、イは誤文、ウは正文なので③が正解である。

問2

正解は④。

④は誤文。アウグスティヌスによれば、地上の国は自己愛に基づき、神の国は神への愛と隣人愛に基づく。

①は正文。墨子は儒教の教えを別愛と呼んで批判し、利害を超えてすべての人が差別なく平等に愛し合う兼愛を説いた。

②は正文。アリストテレスは師プラトンのイデア論を批判し、現実の個物の中にその本質である形相（エイドス）が存在すると論じる現実主義の哲学を説き、経験と観察を重視した。

③は正文。ブッダはバラモン教のカースト制度を批判し、動物や草木にも及ぶ普遍的な命への愛である「慈悲」を説いた。

問3

正解は①。

a に当てはまるのは古代インドのウパニシャッド哲学で唱えられた生まれ変わりの思想である「輪廻」。「業」（カルマ）は輪廻における次の生活に影響を与える原因となる行為のこと。

b に当てはまるのは「死後も魂は存在し続ける」。資料では「魂はもとより不滅である」ことが質問者も認める事柄とされている。

c に当てはまるのは自己の本質を意味する「アートマン」（我）。「ブラフマン」（梵）は宇宙の根本原理のこと。資料では人間の魂の不滅が論じられ、アートマンが追求されていると言える。

問 4

正解は④。

④は正文。イエスはすべての律法の中で神への愛と隣人愛を重視し、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と説いた。

①は誤文。「新たな律法を作るよう命じた」が誤り。イエスは律法を単に形式的に守るのではなく、その根本精神に立ち返ることを主張した。

②は誤文。「洗礼などの実践を否定した」が誤り。イエス自身も洗礼を受けており、洗礼はキリスト教の重要な儀式として行われている。

③は誤文。「律法を批判する勇気がある者だけが到達できる」が誤り。イエスにとって神の国の到来は精神的な出来事であり、それは神の愛に倣って隣人愛を実践する人々の間に生じるとされる。

第 2 問

解答

I

問 1 ③

問 2 ⑥

II

問 3 ④

問 4 ②

解説

問 1

正解は③。

③は正文。古代の日本では、神は時に崇りをもたらず存在でもあると考えられ、神意を伺い神の要求を満たして崇り神をなだめることで、豊穰の恵みがもたらされると信じられた。

①は誤文。折口信夫が唱えた「まれびと」とは村落の外部からやってくる神のことである。

②は誤文。「祓い」が誤り。古代の日本で、怨霊となり災害をもたらす死者の霊魂（御霊）を鎮めることは「祓い」ではない。祓いとは身に付いた罪や穢れを儀式によって落とすことである。

④は誤文。「儒教や仏教などの外来の教えを排除することで神観念が形成され」が誤り。古代の日本では外来思想と接触する前に神観念が形成されていた。

問 2

正解は⑥。

アは誤文。聖武天皇は奈良時代の天皇であり、阿弥陀仏の他力救済を頼る浄土教が日本で発展したのは平安時代後期以降である。

イは正文。空海は鎮護国家を唱えると共に山岳における修行や学問を重んじ、修行者がその身のまま大日如来と同化するという「即身成仏」の教えを説いた。

ウは誤文。称名念仏に専心すること（専修念仏）による極楽往生を説いたのは法然である。

以上より、アは誤文、イは正文、ウは誤文なので⑥が正解である。

問 3

正解は④。

④は誤文。誠を重視した伊藤仁斎は、朱子学の理は日常から離れた抽象的なものと批判した。

①は正文。林羅山は天地自然の道理（天理）と同じく君臣の上下関係が定められているという「上下定分の理」を唱え、そのあらわれである礼儀法度に則った行動を求めた。

②は正文。林羅山は上下定分の理を体現するために、自分の私利私欲を慎む「敬」の心をつねに持つこと（存心持敬）を主張した。そして彼の思想から、武士たちは人間関係のあり方を学んでいくことになった。

③は正文。山崎闇斎は朱子学と神道を合一する「垂加神道」を唱え、それは後の尊王攘夷運動に影響を与えた。

問 4

正解は②。

②は正文。資料では、戦争が「一億一心の協力」を要求しながらも「国民どうしの人間らしい連帯」を断ち切ったと述べられ、さらに決意に基づいて人間を信頼することが求められている。

①は誤文。人間が本来平和を望むという記述は資料の中にある。また他国との外交関係も資料では論じられていない。

③は誤文。資料では、「戦争は、[……] 国民どうしの人間らしい連帯をズタズタに断ち切って」しまったと述べられており、また「人間相手の私たちの行動は、その一つ一つが、自分の中にある「人間への信頼」をテストされているようなもの」だったともされている。つまり、戦争が人間同士の信頼関係を揺らがせてしまったと主張されているわけである。

④は誤文。資料では、理由や証明ではなく「私の決意」に基づく人間への信頼が述べられており、「他者が信頼に値するかどうかを検証した上で」信頼することが求められているわけではない。

第 3 問

解答

I

問 1 ②

問 2 ①

II

問 3 ⑤

問 4 ④

解説

問1

正解は②。

イは正文。カルヴァンは職業召命観の下で世俗の職業を神聖視し、新興の商工業者や独立自営の農民から支持された。また、イギリスに伝来したカルヴィニズムはピューリタニズムを生み出した。

アは誤文。近代ヨーロッパの資本主義の基礎としてウェーバーが論じるのは、プロテスタンティズムにおける職業召命観と禁欲の倫理である。

ウは誤文。「様々な領域で自身の能力を全面的に発揮する」が誤り。これはルネサンス期に理想とされた、「万能人」と呼ばれる人間のあり方である。他方、職業召命観に基づく「職業人」とは、神の栄光を実現するため、禁欲的に自身の職業を全うする人間像である。

以上より、正文はイのみなので②が正解である。

問2

正解は①。

①は正文。カントの思想についての説明は正しい。カントは批判哲学を唱え、理性の能力を検討して人間の認識能力の範囲と限界を明らかにした。資料についての説明も正しい。資料では、美に関する自己の判断を「他者が行う可能性のある判断と照合」することが求められている。

②は誤文。カントの思想についての説明は誤り。カントが「独断のまどろみ」から目覚めるきっかけとなったのはヒュームの思想である。資料についての説明は正しい。資料では、美に関する自己の判断に付きまとっている制約を取り除くことが主張されている。

③は誤文。カントの思想についての説明は正しい。カントは感性による認識の素材の受容と悟性による概念化の協働によって認識が成立すると論じた。資料についての説明は誤り。資料では、美に関する自己の判断を「他者の実際の判断と照合」することが否定されている。

④は誤文。カントの思想についての説明は誤り。カントは「対象が認識に従う」というコペルニクス的転回を唱えたが、認識の対象となるのは現象だけであり、物自体を認識することはできない。資料についての説明も誤り。資料では、美に関する自己の判断の制約を除去することが論じられており、自分独自の美の基準をもつことは主張されていない。

問 3

正解は⑤。

a に当てはまるのは「世間の評判」。資料より、a は「各人は他人に注目し、自分自身も注目されたいと思い始め」ることで価値をもつようになったものであることがわかり、また E の発言より a は不平等を生み出すものであることがわかる。「一般意志」とは、共同体が自由で平等なもの（共和国）になるために従うべき、共同体の全員に共通する意志であり、不適當である。

b に当てはまるのは「自己愛」。ルソーは、自然状態において人間は「自己愛」（自己保存の欲求）と他者の不幸への「あわれみ」に基づき暮らしていたと論じる。なお、社会契約思想は神に依拠することなく統治や権力の正当性を説明しようとするものであり、自然状態を理想的なものとするルソーが、自然状態において人々が「神への愛」を持っていたと考えることはありえない。

c に当てはまるのは「土地の所有」。ルソーによれば、文明社会が土地の所有などの私有財産を認めることで不平等が生み出され自然状態が損なわれた。ルソーにおける「共和国」とは自由で平等な共同体のことなので不適當である。

問 4

正解は④。

④は正文。ノートからは、F が「多様な見方を身に付ける」ことを重視していることがわかる。「美しい」や「きれいだ」という言葉を「どんな意味で使っているのかは人によって違うし、はっきり定義して使っているわけでもない」状況において、「相手のことも自身のことも、よく知る」ため、つまり「多様な見方を身に付ける」ためには、対話を通じて相手と自身の相違点・共通点を見極め、それぞれが何をどのような言葉で表現しているのかを明確にしていかなければならないはずである。

①は誤文。「自分の感覚を信じて、相手の考えに惑わされることなく」が誤り。ノートでは、「自身の価値観や好みにこだわって」いることが否定され、対話を通じて自分とは異なる「相手を理解」し、「多様な見方を身に付ける」ことが重要であると述べられている。

②は誤文。「相手から同意を引き出す」が誤り。相手を自分の意見に同調させるのは、「多様な見方を身に付ける」ことだとは言えない。

③は誤文。「専門家の語った言葉を模範として」が誤り。これは「多様な見方を身に付ける」とは相容れない。なお、132 ページ末尾の F の発言には、専門家に学ぶことも重要だが、専門家自身が正しい見方を知っているわけではないとあり、重要なのは他者の考え方を吟味してよりよい見方を目指すことだと語られている。

第 4 問

解答

問 1 ④

問 2

(1) ①

(2) ②

問 3 ③

解説

問 1

正解は④。

アが説明しているのはハヴィガーストの思想。ハヴィガーストは人間の6つの発達段階の各々における発達課題を定式化した。青年期の発達課題には「同年齢の男女との洗練された関係」、「社会的に責任ある行動」、「職業の選択の準備」、「結婚と家庭生活の準備」が含まれる。

イが説明しているのはピアジェの思想。ピアジェは、子供は初め自己中心的な世界を生きるが、成長すると他人の視点を取り入れ、物事を客観的に捉えられるようになるという「脱中心化」を主張した。

問 2

(1)

正解は①。

①は正文。ハイデガーは存在の意味への問いを自身の哲学の主題とした。また後年には、技術による存在者の支配によって存在の真理を忘却する人間のあり方を「存在忘却」と批判した。

②は誤文。選択肢の文章が説明しているのはサルトルの思想である。

③は誤文。「世人(ダス・マン)」とは、「死への存在」であることを自覚せずに日常生活に埋没する、非本来的な存在の仕方を指す。

④は誤文。「故郷の喪失」とは、存在という故郷から切り離されて存在忘却に陥っているということ指す。

(2)

正解は②。

②は正文。資料では「私がしたことや私にできなかったことは、私が誰であるのかを露わにする」と述べられており、自分ができなかったことによっても自分の存在が決まると主張されている。また「行為の成否というものは、人のコントロールを超えた要素に左右されるものである」と述べられていることから、自分がコントロールできない要素によって失敗する場合でも私が「望ましからぬ人物」になり後悔することがあるとわかる。

①は誤文。「私が何かを成し遂げたとしても、そのことによって私がどのような人物であるかに変化がもたらされることはない」が誤り。資料では「私たちは自分の行いによって、自分がなりたくなかったような人物になってしまったことを後悔する」と述べられており、自分の行為によって自分がどのような人物かが変化すると主張されている。

③は誤文。「行為は、そもそも私が行為をする以前にどのような存在であったのかを明らかにするものでもあるが、私はそれによって後悔することはない」が誤り。資料では、行為によって「私はどのような人物であるか」や「私はどのような人物であったか」が明らかにされて後悔が生じると述べられている。

④は誤文。資料では「ある望ましからぬ人物が存在しているからではなく、まさにこの私が望ましからぬ人物であるからこそ、後悔は苦しいものになる」と述べられており、自分がなりたくなかった人物になってしまったという個人的な問題について後悔が生じると論じられている。

問 3

正解は③。

③は正文。会話において G は後悔を、「自分にはどうしようもないような悲劇に遭遇」しても自分の存在をそこから切り離さず、自分が「世界に働きかける自己であることを自分で否定」しないあり方と考えている。また、自分について「何もできない」のではなく「もっと良くあり得た」と思える」のなら、自分のあり方を自分で決められると思っていることになる。

①は誤文。「悪い出来事を招いたのは自分ではないと確信し、苦悩から逃れる試み」が誤り。直後の H の発言より、G は、自分の思い通りにならない悪い出来事を「私が招いたこと、私が防げなかったこと」とみなして苦しむことが後悔であると述べているとわかる。

②は誤文。「苦しみをバネにして自分を成長させる試み」が誤り。138 ページの会話より、後悔の苦しみを通じた成長を説くのではなく、後悔自体にポジティブな価値を見いだすことが問題になっていることがわかる。

④は誤文。「悲劇が生じるような世界を嘆く」と「現実の世界から自分を独立させる試み」が誤り。会話の中で G は、世界から切り離されて世界を嘆くのではなく、自分を世界の中に置いて、「より良い世界があり得たということ」を自分の問題として捉えることが後悔だと主張している。

第 5 問

解答

問 1	17	③
問 2	18	④
問 3	19	⑤
問 4	20	④
問 5	21	②
問 6	22	④

解説

問 1

正解（正文）は③。資料の中ほどで述べられている通り，資料中の今日では，国家は一定の領域の内部において，制限付きの正当な暴力行使の唯一の源泉であると考えられている。

①は誤文。筆者は，「過去においては，氏族（ジッペ）を始めとする多種多様な団体が，物理的暴力をまったくノーマルな手段として認めていた」と記しており，過去において暴力行使が国家に特有の手段であったとは考えていない。

②も誤文。上記の箇所からは，「多種多様な団体」が暴力行使を「認めていた」ことが読み取れる。そのため「それ以前に暴力行使は・・・」以下の表現が誤りである。

④も誤文。国家の許容した範囲内でのみ物理的暴力を行使することが認められているのは資料中の今日のことであり，過去には「多種多様な団体」による物理的暴力を国家が統制できていなかったことがうかがえる。

問 2

正解は④。

アは b。雇用保険の財源は主に事業者と被保険者が納めた保険料であるが，国や地方公共団体も負担をしている。

イは d。労災保険の財源は，すべて事業者が納めた保険料である。

問 3

正解は⑤。

アは正文。一般的に，憲法 20 条で保障されている信教の自由は，宗教的結社の自由も含んでいると解される。

イは誤文。憲法 20 条によれば，いかなる宗教団体も，国から特権を受けたり政治上の権力を行使したりしてはならない。

ウは正文。憲法 20 条によれば，国やその機関は，宗教教育を含む全ての宗教的活動を行うことが禁じられている。

問 4

正解（正文）は④。消費者団体訴訟制度の導入により，限られた行政のリソースを，より重大な消費者被害に割くことが可能になると期待されている。

①は誤文。法改正の要因の1つは，行政規制の過剰ではなく，行政規制の不行届であった。

②も誤文。消費者団体訴訟制度は事業者行為の差し止め請求を簡略化した制度なので，むしろ事業者に対する規制は強化されている。

③も誤文。法改正により，行政の他に消費者団体も消費者被害の防止の役割を担うようになった。

問 5

正解は②。

アは a。株式会社の株主は，出資額以上の責任を負わない。

イは c。合同会社も株式会社と同様に，出資者の責任は有限責任である。

ウは f。企業の社会的責任や，企業を取り巻く多様なステークホルダーの権益を重視する立場に立てば，株式会社に社会的責任を果たすよう促す役割は重要なものになる。

問 6

正解は④。

アは正文。法改正の前後いずれにおいても，臓器を提供しないという本人の決定は実現される仕組みとなっている。

イも正文。本人の意思表示が不明で家族が臓器提供を承諾した場合は，本人の年齢に関わらず臓器の摘出が可能である。

ウは誤文。本人が臓器提供の意思を示していても，家族が反対する場合には摘出は認められない。

第 6 問

解答

問 1	23	②
問 2	24	⑥
問 3	25	④
問 4	26	③
問 5	27	⑥
問 6	28	②

解説

問 1

正解は②。

メモより、アは製粉会社の購入した小麦の価値 50 (万円)、イは製パン会社の購入した小麦粉の価値 150 (万円)、ウは製粉会社の生産総額から中間投入物の価値を引いた 100 (万円)、エは製パン会社の生産総額から中間投入物の価値を引いた 250 (万円) となるので、GDP が 1 国の年間の総付加価値額を表すことを踏まえると、オは $50 + 100 + 250 = 400$ (万円) となる。

問 2

正解は⑥。

アは b の NI (国民所得)。NI (国民所得) は GDP に海外からの純所得を加え、そこから固定資本減耗と間接税を除き、補助金を加えたものである。

イは c の支出、ウは f。NI (国民所得) は生産・分配・支出の 3 つの側面からとらえることができ、それぞれの面からみた総額は必ず等しくなる。

問 3

正解は④。

アは正しい。市場の失敗例の 1 つに、独占の進行がある。

イも正しい。市場の失敗例の 1 つに、公害や環境破壊のような外部不経済がある。

ウは誤り。売り手と買い手の情報量が同じ場合、市場の失敗例の 1 つである情報の非対称性が解消されていることとなり、市場の失敗は発生しづらくなる。

問 4

正解は③。規制以前の汚染物質の総量は $100 \times 0.01 + 500 \times 0.02 = 11$ (トン) より 11 トンとなる。この場合、規制以後の汚染物質の総量は、 $120 \times 0.015 + 600 \times 0.015 = 10.8$ (トン) より、最大でも 10.8 トンとなり、必ず規制以前の 11 トンを下回る。

①は不適切。この場合、汚染水の年間排出量が無制限であるため、規制以前よりも汚染物質の総量が増える可能性を否定できない。

②も不適切。この場合も、汚染水の濃度が無制限であるため、規制以前よりも汚染物質の総量が増える可能性を否定できない。

④も不適切。この場合、規制以後の汚染物質の総量は最大で 11 トンとなるため、規制以前を確実に下回るとは言えない。

問 5

正解は⑥。

技術革新以前の自動車生産 1 単位分の機会費用は、A 国がオレンジ生産 4 単位分で B 国がオレンジ生産 2.5 単位分なので、機会費用の小さい B 国に比較優位がある。

技術革新後、A 国の自動車生産 1 単位分の機会費用がオレンジ生産 2.5 単位分より小さくなるのは、 $5 \times 2.5 = 12.5$ より、自動車生産 1 単位分に必要な労働力が 12.5 人以下の場合なので、アには b の 10 と c の 5 が当てはまる。

問 6

正解は②。

冷凍野菜の輸入解禁後は、生鮮野菜は冷凍野菜と競合する関係になるため、その需要曲線は解禁前よりも左にシフトする。また、消費者は価格が低ければ解禁前とほぼ同じ数量を購入する（グラフの右下）一方、価格が高くなると冷凍野菜を購入する傾向にあると考えられるため、解禁後の需要曲線の傾きは②のように緩やかになる。

第 7 問

解答

問 1	29	⑥
問 2	30	⑤
問 3	31	③
問 4	32	⑦

解説

問 1

正解は⑥。

アの著者は c のロック。『統治二論（市民政府二論）』で人間は自然権を持つと唱えた。

イの著者は b のホッブズ。『リヴァイアサン（リバイアサン）』で人間は元来平等で独立した存在であると説いた。

ウの著者は a のグロティウス（グロチウス）。『戦争と平和の法』で国際法の理念を提唱した。

問 2

正解は⑤。

アは中国。3 つの国のうち、中国の人口ピラミッドが最もつぼ型に近く、将来高齢化が進むと予測される。

イは人口オーナス。総人口に占める生産年齢人口の割合が低下し、経済成長に負の影響を与える状況を人口オーナスと呼ぶ。

問 3

正解（正文）は③。対価を伴わない無償援助は、第二次所得収支に計上される。

①は誤文。一帯一路構想は、陸路のみならず海路においても経済圏の確立を目指している。

②も誤文。アジアインフラ投資銀行には、アジアのみならずヨーロッパも含めた世界の国々が参加している。

④も誤文。日本の開発協力大綱では、日本の国益の確保も目的に、戦略性を持って ODA を行う方針が示されている。

問 4

正解は⑦。

アは第 4 条、イは第 2 条、ウは第 6・7 条に違反している。